

2023年度厚生労働省医政局委託事業
「在宅医療の災害時における医療提供体制強化支援事業」

連携型BCP/地域BCP策定モデル地域

岡山県倉敷市における取組み

倉敷市連合医師会 今井博之 中村幸伸

倉敷市立市民病院 小山晃子

つばさクリニック 上畑大

川崎医科大学附属病院 椎野泰和 井上貴博 内田康子 大濱忍

倉敷中央病院 池上徹則 竹岡修 國永直樹 山口由紀 柴田由美子

地域の状況

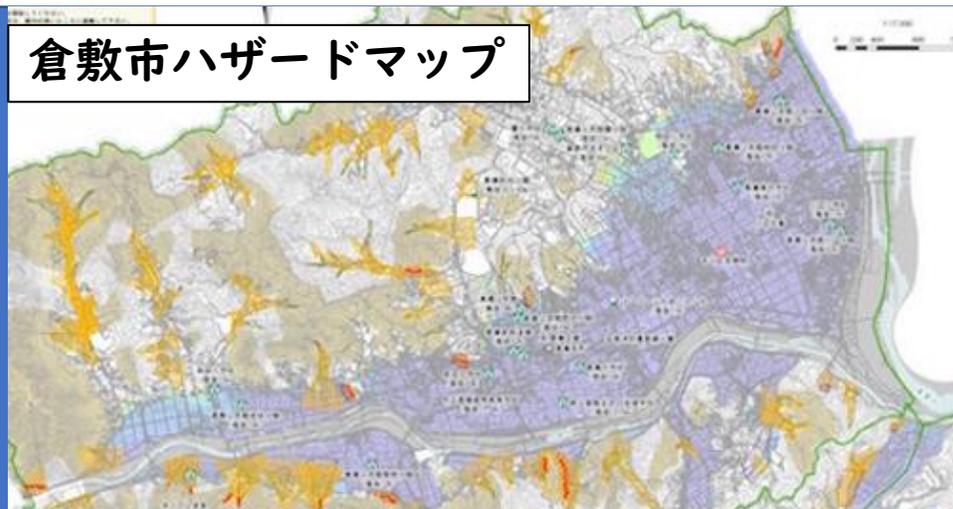
・岡山県倉敷市：岡山県の南部に位置し、白壁の町並みが残る倉敷美観地区、本州と四国を結ぶ瀬戸大橋などで知られる。人口は47.7万人。元来「晴れの国おかやま」として、自然災害が少ないことを地域の特性としていた。



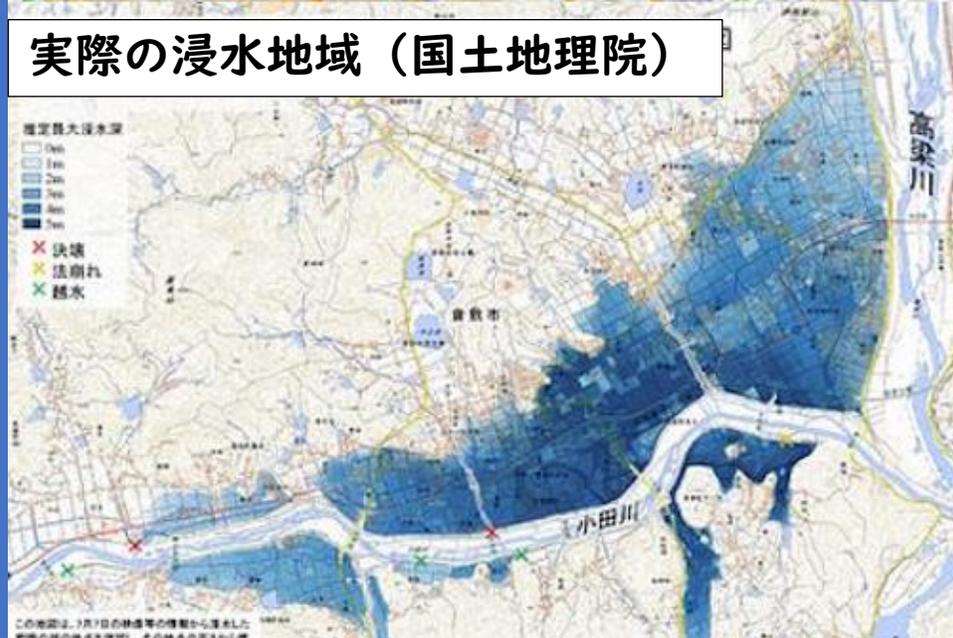
・災害等の歴史：2018年7月の西日本豪雨にて、倉敷市真備地区を中心に河川決壊や土砂崩れが同時多発し、死者61人（関連死除く）、住宅全半壊計8195棟、床上・床下浸水計7058棟という甚大な被害が発生した。



倉敷市ハザードマップ



実際の浸水地域（国土地理院）



わが地域の課題

2018年の西日本豪雨では、患者搬送、診療場所の確保等を含め、地域全体の連携なしには、医療提供を継続することは困難であった。また、医療だけでなく、介護機関においても、発災後のケアサービスの継続は大きな課題であり、いわゆる災害弱者・要配慮者への対応を含め、平時からの医療介護連携の重要性、行政や保健所、消防機関等との連携が不可欠である事を認識した。

西日本豪雨災害から見えてきた課題

① 情報に関する課題

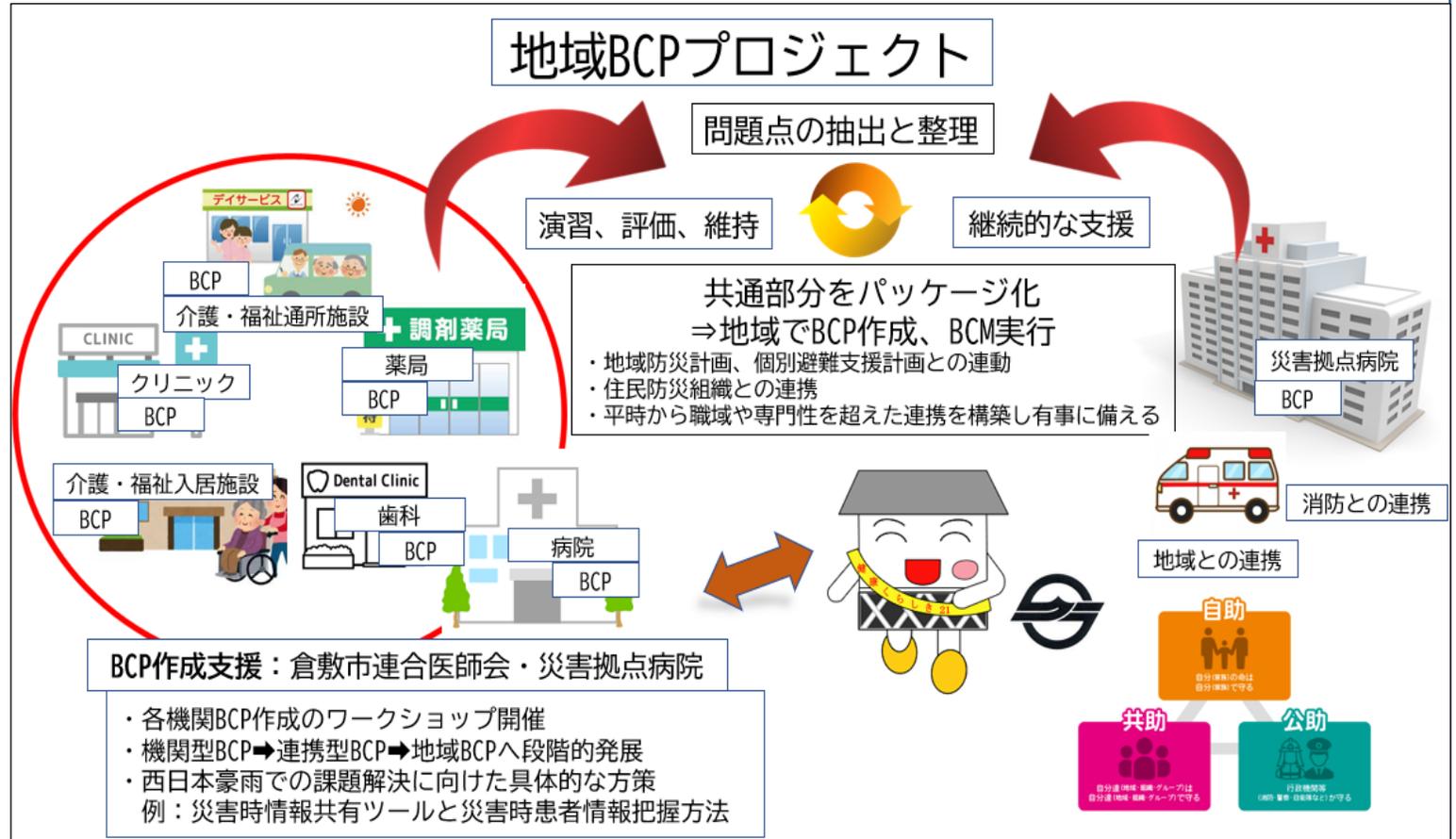
- ・被災状況や支援ニーズなど、情報の集約、共有、発信方法
- ・効率的な被災情報発信・共有方法
- ・介護福祉施設の情報共有ツール

② 連携に関する課題

- ・個別避難支援計画との連動、地域住民との協働、自治体（保健所・消防含む）との連携
- ・公衆衛生・保健活動との連携

③ 備えに関する課題

- ・人工呼吸器等、電気を必要とする患者・利用者に対する対策
- ・避難所運営サポート、救護所運営対策



今年度の取り組み

・目的：医師会と災害拠点病院が中心になって、地域の医療、介護、福祉機関のBCP作成を支援する事で、地域全体でBCPに取り組む。

① 災害時情報共有ツールの開発

EMIS (Emergency Medical Information System)では対応できないクリニック、訪問看護、介護福祉機関の被災状況を把握

⇒11月18日(土)：倉敷市総合防災訓練で実装訓練

スマートフォン上の入力画面

被災状況登録 (医療機関)

電話番号 (必須)
スペースなしで入力

BCP stage (必須)

通常業務
Stage 1
Stage 2
Stage 3
Stage 4
Stageがわかりません

緊急度	人	院内診療エリア	ライフライン	情報通信 電子カルテ オーダーリング	移動手段
ステージ 4	7割以上のスタッフが出勤不能 + 長期間にわたり復旧のめどが立たない	院内診療可能エリア 3割以下に制限	停電：自家発電の機能喪失 + 復旧のめどが立たない 電源喪失	断水：外部からの供給不可 + 復旧のめどが立たない	全体的に支障がある + 長期間にわたり復旧のめどが立たない
ステージ 3	5割のスタッフが出勤不能	院内診療可能エリア 5割に制限	停電：自家発電が種別 24~72時間以内に復旧見込み	断水：受水槽から供給し対応 24~72時間以内に復旧見込み	使用不可 24~72時間以内に復旧見込み 大半に支障がある
ステージ 2	2割のスタッフが出勤不能	院内診療可能エリア 7割に制限	停電：自家発電が種別 24時間以内 7割に復旧見込み	断水：受水槽から供給し対応 24時間以内 7割に復旧見込み	一部使用制限 24時間以内に復旧見込み 一部に支障がある
ステージ 1	1割のスタッフが出勤不能	院内診療可能エリア 9割以上は安全に稼働	ほぼ影響なし	ほぼ影響なし	一部使用制限 1-2時間以内に復旧見込み 一部に支障がある

人的被害 (必須)

なし
被害があるが継続可能
被害で継続不能

要避難患者 (利用者)
避難が必要な患者数

電気 (必須)
OK
停電

水道 (必須)
OK
断水

トイレ (必須)
OK
使用不能

送信する

倉敷BCP

更新日時 名前 stage

R5/8/26 13:12:28	倉敷中央病院	2
R5/8/25 13:28:51	つばさつばさクリニック	1
R5/8/23 16:01:35	イマイクリニック	0
R5/8/22 17:17:47	多田クリニック	?
R5/8/22 17:16:36	グリーン在宅クリニック	0
R5/8/9 13:29:26	川崎医科大学附属病院	?
R5/8/3 19:50:14	辻眼科内科	2
R5/8/3 19:49:18	総合病院 水島協栄病院	2
R5/8/3 19:48:51	青澤医院	2
R5/8/3 19:48:48	水島中央病院	0
R5/8/3 19:48:48	ほうぼフ科クリニック	2

医療機関

介護施設

28/356
入力済み医療機関

要避難者数 (合計)
138

2/174
入力済み介護施設

停電発生医療機関数	断水発生医療機関数	トイレ使用不能医療機関数	人的被害あり医療機関数	要避難者あり医療機関数	要避難者あり介護施設数	人的被害あり介護施設数	トイレ使用不能介護施設数	断水発生介護施設数	停電発生介護施設数
5/28	6/28	0/28	8/28	8/28	0/2	1/2	0/2	1/2	1/2

今年度の取り組み

② 在宅人工呼吸器患者の緊急避難時対応 (市内の訪問看護ステーションにアンケート、実数把握) 倉敷市内の在宅人工呼吸器療法の患者数

地域	施設数	総数	年齢分布			
			0-6歳	7-12歳	13-15歳	16歳以上
旧倉敷	8 + 1	41 + 1	6	10	6	19
水島	1	2	0	0	0	2
玉島	4	11	3	3	0	5
児島	2	5	1	1	1	2
茶屋町	1	3	0	1	1	1
真備	2	3	0	0	0	3
計	18 + 1	65 + 1	10	15	8	32

(+1は補助人工心臓使用者)

- ・バックアップ計画を作成し機関のBCPへ反映、地域の中核病院がそれを支える構図を目指す
⇒連携型BCP
- ・個別避難計画との連動を検討
⇒地域BCPへ

③ BCP作成支援ワークショップ(昨年度より継続) (全3回、最終回はシミュレーション訓練) 入院医療機関:8機関(8/26、10/7、12/2) クリニック(歯科含む):12機関(10/21、12/16、1/20)



④ 「平成30年豪雨災害を振り返り、今後の自然災害への備えを考える会」を開催、5年前の経験を再確認した 日時: 9月10日(日)午前10時~午前12時

